



①横室の大カヤ

富士見地区の歴史

富士見地区は、標高1,828mの赤城山山頂からその裾野まで、雄大な赤城山に抱かれています。その豊かな自然環境を反映してか、縄文時代から中世に至るまで多くの遺跡が確認されています。狩りや植物の採集に生活の基盤をおいていた縄文時代の遺跡では、今から6千年ほど前の縄文時代前期から中期にかけての集落遺跡が多く検出され、多数の縄文土器が出土しました。古墳時代には、白川沿岸などに多くの古墳が造られました。横室の九十九山には、唯一の前方後円墳である九十九山古墳が今も残っています。

また、赤城山は、古くから神の山として人々の信仰の対象とされてきました。赤城山赤城神社や珊瑚寺の多宝塔など、赤城信仰に結びつく数多くの文化財を見ることが出来ます。

江戸時代には、農村の娯楽の一つとして、地芝居が流行しました。横室地区の横室歌舞伎は、250年を超えた今も続けられています。歌舞伎で使う衣装は、はるばる江戸まで出かけ、当時の江戸歌舞伎の名優が実際に使用したものを買い求めたりもしたようです。絢爛豪華な衣装は大切に受け継がれ、その中の15点が群馬県の重要文化財として指定を受けています。

沼田街道沿いにある国指定天然記念物「横室の大カヤ」は樹齢千年以上ともいわれ、現在も道行く人の流れを見つめ続けます。

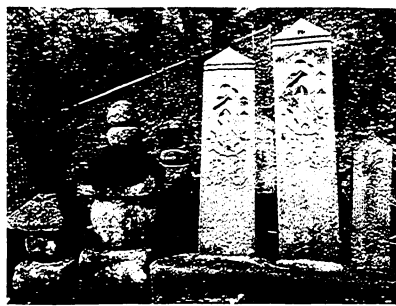
富士見地区の文化財めぐり

問い合わせ先 文化財保護課
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9875
FAX 027-231-9862



前橋市教育委員会

文化財保護シンボルマーク



⑩珊瑚寺の板碑と多宝塔

富士見地区の文化財を訪ねて

① 横室の大カヤ(国天然) 富士見町横室1023-1
カヤは、暖帯に生育する常緑針葉樹です。樹齢千年ほどのこの大カヤは、自通り周囲8.2mの大木で、日本三大カヤの一つに数えられています。寛延2(1749)年にこの地に諏訪神社を祀った際、ご神木とされたと伝えられています。

② 横室の歌舞伎衣装(県重要) 富士見町横室730 横室会館
江戸時代から明治時代にかけて、この地区の大きな娯楽に、地芝居がありました。横室歌舞伎は250年を超える歴史をもち、現在でも県内地方歌舞伎の一つに数えられています。寛政7(1795)年から明治の初めにかけて買ひ集めたという絢爛豪華な衣装の中には、江戸歌舞伎の名優が使用したものもあります。

③ 横室の宝篋印塔(市重文) 富士見町横室
宝篋印塔は、供養塔として建てられた石造物です。安山岩製のこの塔は、大正年間(十二山を開鑿中に出土したもので、その後現在地に移されました。「奉造修 善祥禪尼」とあり、善祥禪尼という人が生前に建てたものと推測されます。正長元(1428)年の紀年銘から、「正長の宝篋印塔」とも呼ばれています。



⑨九十九山古墳

④ 萩林庵の阿弥陀像(市重文) 富士見町原之郷甲1791
この場所には、浄久院萩林庵という庵堂がありました。山門や、敷地いっぴいの堂をもち、壁絵あらたかであったといえます。本尊の阿弥陀如来は銅製で、背面に「応永34(1427)年」の銘があります。明治4(1871)年、周辺の大火災で庵が焼失したとき、如来が自身で前の川へ身を沈め、難を逃れたという言い伝えがあります。

⑤ 原西の阿弥陀像(市重文) 富士見町原之郷551-2
慶長11(1606)年に大和国の仏師丹後法印とその弟子三光坊が造立し、丹波寺に納めた阿弥陀像は、地域の人々

の信仰を集めました。しかし、その後焼失してしまったため、天保12(1841)年に仏師康隆により再び造られました。木造で高さ104.5cmのこの像は、墓地内の阿弥陀堂に納められています。

⑥ 船津伝次平の墓(県史跡) 富士見町原之郷乙539
天保3(1832)年、原之郷の農家に生まれた伝次平は、若い頃から学問に励み、和算の奥義を究めるとともに農業技術の改良に努めました。その功績が認められ、明治10(1877)年、内務卿大久保利通から任命を受けて、駒場農学校(現在の東京大学農学部)の教師となります。その後、農商務省巡回教師となって全国各地を巡り、農業技術の普及に努めました。明治三老農の一人として「上毛かるた」などで親しまれています。

⑦ 九十九山古墳(市史跡) 富士見町原之郷275-1
「上毛古墳総覧」に富士見町第16号墳として記載されている、通称九十九山の山頂を利用して造られた全長60m、高さ5.5mの古墳です。円墳とされていましたが、その後の調査により前方後円墳であることがわかりました。後円部南に開口した全長8.3mの自然石乱石積の横穴式石室は、幅が奥壁1.95m、中央部1.1m、入口0.9mと狭くっており、箱型に属しますが、耳環や馬型の形象透輪が出土したと伝えられていますが、現在は不明です。

⑧ 時沢の仁王と多宝塔(市重文) 富士見町時沢685 安楽寺
境内にある不動堂の仁王像は、天明2(1782)年、板蓋(現在の安中市板蓋)の仏師確水の手作と伝えられています。その後火災に遭い、仁王門は焼失しましたが、像は運び出されて災難を逃れました。近くにある多宝塔は、安山岩製で一部欠損していますが、南北朝時代(1336~1392)のものとして推定されます。小鳥が島や珊瑚寺の多宝塔とともに、中世の法華経信仰を物語るしています。

⑨ 旧赤城神社参道松並木(市史跡) 富士見町時沢1866

江戸時代初期、旧赤城神社(大洞赤城神社)の表参道だったこの地に、松並木が植えられました。北は小暮村(現在の富士見町小暮)から、南は不動堂村(現在の富士見町時沢)まで続いていたといえます。富士見地区内には他にも松並木がありましたが、戦時中、松根油を採取するためにほとんどが伐採されてしまいました。この松並木は幸いにも何本が残り、昔日の面影を今にとどめています。

⑩ 時沢の夫婦マツ(県天然) 富士見町時沢3164
時沢小学校の校庭東にあるこの松は、樹齢300年以上といわれています。黒松と赤松が根元で合着していることが名前の由来です。この場所にあった旧赤城神社参道の松並木の名残です。

⑪ 小暮神社 富士見町小暮814
現在、小暮十字路にある高さ21.3mの大鳥居は、赤城山赤城神社の一の鳥居として親しまれています。この地にかつてあった旧小暮一の鳥居(市重文)は、現在小暮神社境内に移され、当時の姿を今に伝えています。

⑫ 不入の蔵骨器(市重文) 富士見町石井1116
蔵骨器とは、火葬した骨を納めて埋葬した石製の骨つぼのことです。この蔵骨器は、明治時代に近くを開鑿したときに出土したもので、当初は五輪塔とされていたが、その後の調査で蔵骨器であることがわかりました。1基は丸い石を重ねたもの、もう1基は丸い石に屋根型の石を重ねてあります。いずれも下部の石に四角い穴が開けられ、上部の石が蓋となっています。千年ほど前のものと推定されています。

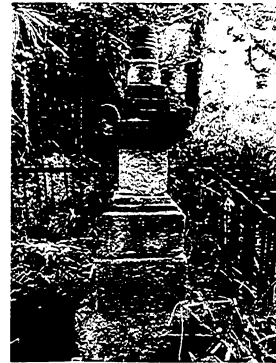
⑬ 珊瑚寺 富士見町石井1227
この寺は、大同元(806)年に勝道上人が開いた三光院三観音が始まりと伝えられています。その後、尼寺となった。荒れ果ててしまったりしましたが、文明年間(1469-1486)に僧・義興が跡を継ぎ、寺の名を三光院珊

瑚寺と改めました。境内には、3基の板碑(市重文)があります。板碑とは、供養のために建てられた現在の塔婆と同じものです。それと「正和22(注:正和4)(1315)年」、「建武元(1334)年」、「建武2(1335)年」の銘があり、その形や彫りは、類例の少ない見事なものです。並んである多宝塔(市重文)は室町時代の作と推定されています。

⑭ 普沢焼窯跡(市史跡) 富士見町普沢江戸窪
「前橋藩日記」等によれば、普沢焼は文化年間(1804~1817)に藩営の事業として始められました。文政5(1822)年に民営となり、天保年間(1830~1843)末頃まで徳利や茶碗などの陶磁器が焼かれました。「普沢の瀬戸焼」と呼ばれたこの窯跡は、発掘調査を行っていないため詳細は不明ですが、雑木林に覆われた中に遺構が残っています。

⑮ 赤城山赤城神社(大洞赤城神社) 富士見町赤城山大洞4-2
赤城山山頂の大洞のほとりにあるこの神社は、大同年間(806~809)に始まったと伝えられています。この年号にちなみ、かつて赤城神社があった大洞の南端の地を大洞と呼ぶようになりました。現在神社が建っている大洞に突き出した小鳥が島の中央に、総塚と呼ばれる多宝塔がありました。神社再建にあたり、この多宝塔を移したところ、その下から10面の古鏡と総筒の一部が出土しました。これらは、小鳥が島出土鏡(附宝塔及び総筒残欠) *として、群馬県の重要文化財に指定されています。

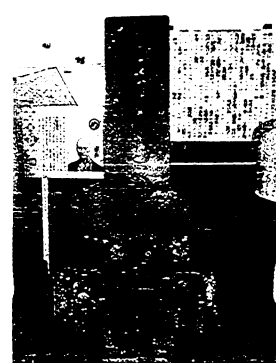
⑯ 沼の窪のザゼンソウ(市天然) 富士見町赤城山
ザゼンソウは、サトイモ科の湿地帯に生える多年草で、2月から3月にかけて花をつけます。花の形が座禅を組み、僧侶の姿に似ていることから、ザゼンソウと名づけられたといわれています。かつて牧場であった沼の窪有林内では、細ヶ沢川の源流沿いにザゼンソウが群生しています。(重文…重要文化財 天然記念物)
*については、ふたん公開されていません。



③横室の宝篋印塔



⑤赤城山赤城神社



⑥船津伝次平の墓



⑧沼の窪のザゼンソウ



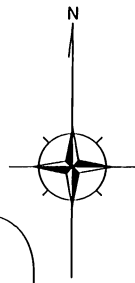
⑪旧小暮一の鳥居



⑨旧赤城神社参道松並木

⑫不入の蔵骨器

富士見地区の文化財を訪ねて



文化財めぐりコース

東コース (27.8km)

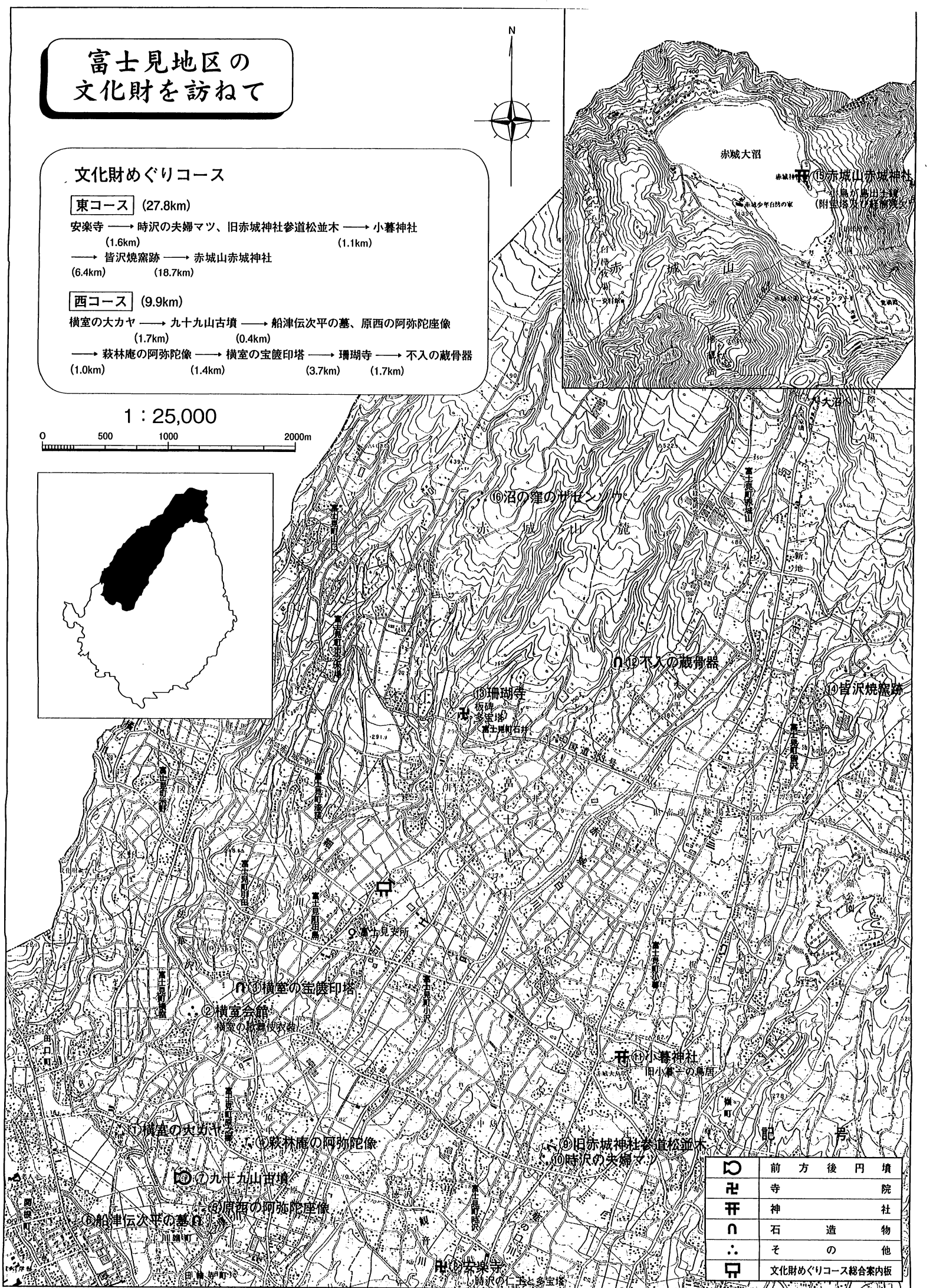
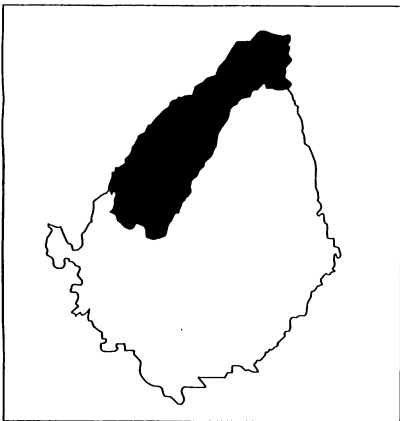
安楽寺 → 時沢の夫婦マツ、旧赤城神社参道松並木 → 小暮神社 (1.6km) (1.1km)
 → 皆沢焼窯跡 → 赤城山赤城神社 (6.4km) (18.7km)

西コース (9.9km)

横室の大カヤ → 九十九山古墳 → 船津伝次平の墓、原西の阿弥陀座像 (1.7km) (0.4km)
 → 萩林庵の阿弥陀像 → 横室の宝篋印塔 → 珊瑚寺 → 不入の蔵骨器 (1.0km) (1.4km) (3.7km) (1.7km)

1 : 25,000

0 500 1000 2000m



⊙	前方後円墳
⊚	寺 院
卍	神 社
⊠	石 造 物
∴	そ の 他
□	文化財めぐりコース総合案内板

この地図は、前橋市長の承認を得て、同市作成の前橋市現形図 1 / 25,000を使用し、複製したものである。